時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓
〇一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送達スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月二十六錢ノ送達料ヲ申受ク
月曜日、大祭祝日の翌日并に歳末年賀等他の新聞紙休刊の日のみに時事新報の配達は一ケ月前金八錢なり但し郵便配達の地方は此外一枚に付一錢を申受ク

時事新報廣告料前金

一行廿四字詰五錢活字ニテ	一行ニ付一日限	一行ニ付二日以上六日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至廿行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢 五厘

時事新報

貧民の保險貯蓄（昨日の續）

貧民を救ふが爲めゑ職工保險の法を設るの說はビスマルクの新案ならずして是れより先き英國ゑ於ては多年貧民救助の策を講じて保險の說を唱へたる者少なからず抑も救貧法の如きも今日ゑ在ては徒ゑ財貨を浪費し中以上の人民の負擔を重くするのみにして成績の擧らざるは全く其法の宜きを得ざるゑ在れば論者中ゑは其弊を唱へ國家保險の法を設けんとて千八百八十五年及翌八十六年ゑ取調委員を置き施行の方法等を審議したれども其議論の一おらざると又他に重要の問題ありたるが爲め立消となり今日まで終に實効を見ざりしなり然れども學者政治家中に國家保險は救貧法に比して愈るゑと疑ふあれば之を實施す可しと說くもの多くして輿論も次第にゑれゑ傾き遂に其施行を見るゑとおらんと云ふ吾邦ゑ在りては古來貧富の等差、少なければ英國若くは日耳曼の例を以て推す可らざるは勿論なれども今後社會の進歩と俱に貧富の懸隔益々甚ざしきに至るは事實自然の勢にして容易に制す可きゑ非ず貧富の差いよ〳〵甚だしければ隨て社會主義共產主義の起る可きも亦自然の勢なれば我輩は今日直ゑ國家保險の法を日本ゑ行ふ可しと主張するゑは非ざれども豫め貧富相違の原因を極め之を防ぐの策を講せんゑと今より斷る所あり

貧民保險の事は容易に行れ難しとするも貧民貯蓄の流に至りては大に奬勵して其便を計る工夫なかる可らず而して之を自然の成行に放任するに於ては事の擧る可き理なければ政府より干渉して驛遞貯蓄の法を設くるは寧ろ必要の務ある可し西洋諸國には到る處ゑ其法を設け目的は廣く國民に貯蓄の念を起さしむるゑ在り就中、中以下の種族ゑ至ては日々出入の生計にして些少の金額も手元ゑ殘し置けば溜れもなく消費するの常なるが故ゑかりそめゑも其餘剩の金を最寄の郵便局ゑ拠として貯蓄するの法われば其功德甚だ少おからず即ち此法の流行以來中以下の人民に節儉の念を起して良結果を來したるゑとは人の知る所なり

日本に此法を移したるも同じく右の精神ならんなれども今日の實際を何へば吾黨は聊か說なきを得ず現在の法ゑ因るに驛遞局預金の最高額は日々五十圓を一口と爲すが故ゑ大に預金を爲さんとする者は一日に五十圓と雖もし一年三百六十餘日にして大數一萬何千圓を積託し得る計算なり圓より最高の數なれば一般人民の總て此の如くならざるは明白なりと雖も最高制限の大なるが爲めゑ今の驛遞貯金の樣は獨り中以下の人民のみ其澤に浴するに非ずして中以上、寧ろ富有の家にして所持金を托する者少からず實際の事は詳おらずと雖ども試ゑ貯金本人の身元を糺したらば中以下の人民は頭數ゑそ多けれ其金額は却て少き事相あるゑとならん驛遞貯金の利子は年四朱二厘ゑして甚だ薄きが如くなれども銀行に托しても利子は年五朱内外に過ぎざるが故ゑ人情の自然政府の方ゑ就かざるものなき且政府が驛遞貯金の法を設けたるは只中以下の人をして節儉貯蓄の道を得せしめんとの旨趣あれば更ゑ實際ゑ就て其便法を設けんゑと希望に堪へざるあり

就て我輩の所見を陳ずれば第一は今の貯金の制限を改め一日五十圓一年一萬何千圓の額を更に大に減少して例へば一年三百圓一日一圓と云ふが如く其額を引上げ又最低制限の十錢を改めて五錢若くは三錢と爲し中以下の者をして一層貯金の便利を得せしむるに在り中以上の人は其金を驛遞局の保管ゑ托せざるも銘々自身ゑ始末し各最寄の銀行ゑ預くるの道なきに非ずと雖も以下の小民は些少の餘剩を銀行ゑ持參するも銀行にて其煩を厭ふの意味もあり或は各郵便局へと愚へども他人は一度ゑ三五十圓を托する其側ゑ自分は僅ゑ十錢銀一片の記入を願ふとありては何か外聞ゑ面白からず旁々以て驛遞貯金の便利を利用せざる者多きが如し遺憾なりと云ふ可し英國の驛遞貯金法は施行以來既に廿八年その間種々の改正を加へ世界各國驛遞貯金の中に最も完全の聞ありて貯金の制限は最高一ケ年額卅磅（凡我百八十圓）を踰ゆ可らざるの法なり近來更ゑ之を五十磅に引上ぐるの議論ありて下院の問題となりたるに若しも斯の如く改正すれば銀行貯金に影響を及ぼし民間の銀行者は利益を殺がるゑと共に中以上の財產家が次第に驛遞貯金を利用して却て貧者の便を奪ふの恐ある可しとて五十磅の說は廢案に歸したりと云ふ然るに日本の貯金は日に五十圓を限りて一年一萬何千圓の大金を托す可し其數に於て既ゑ不釣合のみならず東西貧富の相違を考へたらば是非とも一考を要するゑとなる可

（未完）

雜報

〇米國通信　十二月廿九日桑港發

米國歲暮の景況　百般の人事何とおく活潑頻繁なるは米國日常の狀態ゑして今更改めて其有樣を記すの要なきに似たれども茲に千八百八十八年の暮に際せる當地方の景況を報せんゑ當地商業市場の中心たるマーケット、センガムリー、カーチーの三大街は勿論其最寄の店々何れも一入の好景氣を現はす中にも呉服、書物、小間物等を業とせる向きは去る十八九日頃より顧客店頭に山をなし通信者之を過ぎて端おく日本の正月二日賣初めの時を思ひ起せる程なり重もおる小賣店ゑて年中賣高の最も多きは毎年の暮に在るゑとなれば此期を見込み新ゑ種々の商店を開くものありて存分の利潤を收むる者頗る多しと云ふ左れば昨今出でゝ市中を徘徊すれば曾て見しゑとなき新店彼處にも此處にも現れ市街の兩側には正札附の小道具屋世引きも切らず立ち並びて如何にも世話しく賣り付くる其樣は銀座の夜見世に彷彿たり勿論米國には日本の如く大晦日の掛取、年賀の用意に忙はしきとはなければ其代り十二月二十五日のクリスマスに贈物を取替すの習慣あり一般の米人（殊ゑ基督敎信者）は獸て此日を迎へ親戚朋友は云も更なり多少の交際ある人より家内下女下男に至るまで一々贈物をなし贈られたる方も身分相應の返禮をおすゑとおれば此贈物の買入は自ら商家の繁昌を來たすと云ふ

〇淨土宗公會　芝公園地内おる淨土宗事務所にては定式ゑ依り來る三月七日より同宗公會を開き全國同宗に係る一切の事務を會議し殊ゑ今回は著しく宗務上に改良を加ふる筈なりと

〇日本弘道會通俗講談會　明二十七日午後二時より四谷區新堀町公立四ッ谷廣瀨小學校ゑ於て同會の通俗講談會を開き南摩綱紀氏外數名の演說ありと云ふ

〇貿商の新年宴會　芝愛宕町警察署管内の貿商一同は來月六日紅葉館に於て新年宴會を開くよし

〇家畜飼養の流行　長崎縣下對馬國ゑては近頃家畜飼養大ゑ流行し中にも豚を養ふ事は尤も人の注目する所ゑして目下類りに種畜を買入るゝ者多きよし

〇甲武鐵道工事　府下新宿より武州八王子驛に至る四十二哩間の鐵道工事は新宿より立川迄十七哩間昨年十一月までに悉皆竣工したるも同所より八王子迄二十五哩の間は同線路中の難所とも云ふべき玉川外一川の架橋工事ありて右二橋とも昨年七月以來工事ゑ着手し居れども他の工事と違ひ容易の事ゑあらざるのみならず目下嚴寒の候ゑ際し殊に川中の仕事故煉瓦并ゑセメント等の工事に頗る困難し居る由にて全線の落成は來る三月中の見込なりといふ

〇道路修繕の落成　横濱の紳商原六郎氏は昨春久良岐郡本牧本郷村に別莊を新築したるが同港山手居留地より同村に至るの道路は從來狹隘にして凹凸一ならず通行頗る困難なるゑ付同氏は先頃金三百五十圓を同村々費中に寄附して道路修繕の儀を出願し許可を得て工事に着手中なりしが此程悉皆竣工しゝよし

〇塗漆結果檢査證　堀田瑞松氏の工風ゑ成りゝる軍艦の甲鐵に塗漆して鐵板の腐蝕を防ぐの法は先年露國東洋艦隊の旗艦ドミトリー、ドンスコイ號ゑ實施して好果ありし由にて同艦長より左の證明書を堀田氏に送りゝる由なり

塗漆結果檢査證

本證ハ露西亞帝國太平洋艦隊旗艦之甲鐵部ニ丁寧ニ塗漆ヲ執行レタル事及ヒ塗漆檢査委員ハ鑒定スル所ニヨレハ此漆ハ實ニ鐵板ノ腐蝕ヲ防止スル者ト認メタルニ依テ茲ニ官印ヲ捺レ以テ之ヲ證明セン爲メ日本臣民堀田瑞松ニ贈與スル者也

千八百八十八年露曆十二月四日

露國旗艦　ドミトリー、ドンスコイ號
艦長海軍大佐　スクレイドロフ手記
同海軍大尉主計官セレブレニコフ手記

〇大森盛長の遺物　業古十種にも記載せる大森彥七盛長の着用したる腹卷、鉄鎖、喉輪、佩楯、籠手の五品を去る二十日四谷區信濃町大森詮二郎氏より遊就館に出品したるを以て同館にては來る二十七日より陳列して縱覽ゑ供するよし

〇時雨蛤　伊勢國桑名の名產とて昔より世に名高き時雨蛤は同國本曾、揖斐二河の川尻に多く產し桑名郡鑄師町より蛤捧と唱へて日毎に出る漁船は百餘ゑも餘るべし一艘の船に乘込漁夫は三名宛ゑて一日に採收する蛤は平均總高五百桶（一桶は一斗入）にして此價は百五十圓即ち一斗三十錢おりとぞ然るゑ時候最と寒くおりぬれば蛤深く泥中ゑもぐりて採易からざれば大塞の間は暫く蛤捧を休むの慣例なるが此際ゑは漁夫等はシヽヒ捧（海貝）とも云ふに出づシヽヒは下等品ゑしてその味ひ蛤に及ばざれば値ひも從て安く一斗入一桶ゑ付十錢なれども採收高は蛤の三倍なりと云ふ

〇清國ゑ於て中農商務省へ品を在漢口務省へ左の曾て試賣の營堂ゑ委托四月中同堂と清曆七月處到着時日するも取引ゑり最も英米低廉なるを翻すべしとの報告ゑ綿フラヂルゑり出したるを顯したるを就き品評を物を實據たる元來何品ゑ關係を及ぼするを望むル見本數種省商務局に綿フラヂルゑ入れ共未の商品たる用を擴張を占據すべを評すれは白地は需用販路最も廣して密なるき評すれば色は間々上にして焦茶ゑして需用せの賠償する一反六弗内外我曲尺の一品本品は元來引の大季節ゑ減すへし清人の衣服ゑ注意する事は宜しく茲り輸入する宜の染色を得んと欲する數種を送業者等之を製造し來年附われば本當其改良品ゑは する事を得

備紀州和歌山四十四號内下女下男に至るまで一々贈